

緑のセンターだより



No.163

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター（相談所）
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel: 0166-65-5553 Fax: 0166-65-5626
旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

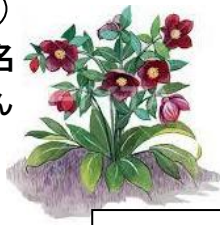
発行：平成 28 年 12 月 1 日

講習会のご案内

（お申込み・受付は前月の 20 日から）

「クリスマスからお正月の寄せ植え」教材費 ¥2500

とき 平成 28 年 12 月 4 日（日）**（実習）**
午後 1:30~3:30 定員 20 名
講師 フラワーマスター 山本裕美さん



～年末年始のお知らせ～

12 月 30 日～1 月 4 日まで
休館させていただきます。
新年は 1 月 5 日から開館
いたします。



「果樹の剪定と栽培管理」リンゴ、サクラホボほか

とき 平成 29 年 2 月 19 日（日）
午後 1:30~3:30 定員 50 名
講師 ふじくらますも果樹園



代表 増茂 聡さん

連続講座-全 3 回出席できる方-① 1 組 1,000 円

「葉っぱで冬に遊ぼう講座-森の動物づくり」

- ① 1 月 14 日「小動物の学習と子ネズミづくり」
- ② 1 月 21 日「小鳥の学習と小鳥をつくろう」
- ③ 1 月 28 日「エゾリスの学習とリスをつくろう」

※小学生と保護者 定員 10 組 9:30~11:30

NEW

「植物の病害虫と園芸薬品」**特別講座**

とき 平成 29 年 2 月 23 日（木）
午前 10:00~12:00 定員 50 名
講師 住友化学園芸 草間祐輔さん

旭川の皆様にお会い
できるのを楽しみに
しています



運動不足に
ダイエット
最高だあ～



歩くスキー無料貸出

スキー、シューズ、ポール3点セット

期間：12月中旬から2月下旬予定

時間：10:00 から 16:00 まで

（返却は 17:00 まで）

距離：歩くスキーコースは約 3km

※シューズのサイズが揃っていない
ので、ソックスをお持ちください。

詳細、降雪状況は ☎ 65-5553



展示会のご案内

（初日は午後から、最終日は 4 時まで）

【休館日のご案内】

4 月～10 月は第 2・第 4 月曜日が休館日です。（祝日の場合は翌日）

11 月～ 3 月は毎週月曜日が休館日です。（ " " ）

「神楽岡公園の自然写真展」

12 月 3 日～1 月 2 9 日



〈園芸の基礎知識〉 植物の根の構造と働き

～いろいろな根の変態～

根は地中であって、地上部を支え、水や養分を吸収するのが基本的な働きです。しかし、ときには形や働きを変えることがあります。これを根の変態といいます。地中の塊根も変態ですが、地上に出るものの変態も多く、空気中に出る根を気根といいます。おもな根の変態には次のものがあります。

■フウランの気根

樹幹などに着生しますが、空気中の水分を吸収する役割もします。



■ヤドリギの寄生根

ヤドリギやネナシカズラなどのように、ほかの植物体に入って養分を吸収する根を寄生根といいます。



■キツタの付着根

つる性の茎から短い気根を伸ばして木や石垣などからみつきます。



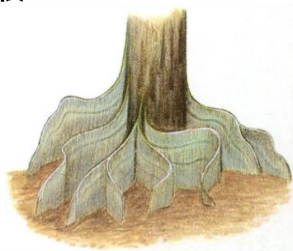
■ウキクサの水中根

水面に浮いて生活しているウキクサは細い根を水中にたらしめています。水中根や寄生根には根毛は見られません。



■サキシマスオウノキの板根

サキシマスオウノキに見られる板根は、根が平たい板状に発達して地上に垂直に出たもので支柱根の仲間です。



■ラクウショウの呼吸根

湿地では根は地上にこん棒のような形の呼吸根を出します。



(参考資料: 学習研究社「大自然のふしぎ※植物の生態図鑑」)

緑の相談 Q&A (37)

この冬は積雪が早く、樹木に絡まったセンニンソウが雪の下になりました。つるが2mくらいに伸びていますが、今からでもつるを適当に切ってもいいでしょうか？

センニンソウはキンポウゲ科のつる性の宿根草でクレマチスの仲間です。一般に北海道の道央以南で自生していますが、旭川市でも生息事例があります。放任しておいても毎年秋に花が咲きます。ただし、今伸びているつるに花を着けるのではなく、来年春以降に伸びたつるに花を着ける、いわゆる新枝咲きです。そのままでもかまいませんが、雪の上に出ているつるは枯れて、雪の下になっている株元に近い充実した芽、または地中の芽が伸びてきますので、枯れたつるや伸びすぎたつるは冬の初めころに切り取ります。強剪定する場合は株元から30cmくらい残して切り取ります。



なお、毒のある植物です。汁液が皮膚につくと炎症を起こすことがありますので注意しましょう。

植物の病害虫

その 34 「アザミウマ類(スリップス類)」

1 寄生しやすい植物

《ヒラズハナアザミウマ》 カーネーション、シュツコンカスミソウ、スターチス、トルコギキョウ、デルフィニウム、ストック、キク、グラジオラス、ダリア、バラなどの花き類。

《ネギアザミウマ》 カーネーション、スターチス、トルコギキョウ、キク、グラジオラスなどの花き類。

《キイロハナアザミウマ》 カーネーション、トルコギキョウ、キクなどの花き類。

《チャノキイロアザミウマ》 トルコギキョウ、カンキツ、カキ、ブドウ、ナシ、イチゴなど。

2 被害

カーネーションにはヒラズハナアザミウマ、ネギアザミウマ、キイロハナアザミウマの3種類のアザミウマの寄生が認められていますが、発生割合は場所や年次によって異なります。開花前の被害は新芽の先端部に潜り込んで加害するため、新芽の先端が曲がったり、激しい時には心止まりして側枝の発生が多くなることがあります。花では、つぼみの時期に寄生すると花弁の先端が白色から淡褐色になり、開花しないこともあります。また、開花しても赤やピンク系の花は花弁に白い斑点が、白色系の花では赤褐色の小斑点が無数に生じるなど、品質が著しく損なわれます。

チャノキイロアザミウマは広い寄主範囲をもち、北海道では30年ほど前に温室栽培のトルコギキョウに発生して大きな被害を受けました。トルコギキョウの被害は、生長点付近を中心とした茎葉部や花部に現れます。吸汁加害を受けた部分は最初白いかすり状となり、のちに被害痕は光沢ある淡褐色となります。さらに進展すると全体に黄化症が現れ、葉は萎凋して硬化します。着蕾した時期に寄生すると蕾の内部にひそんで加害し、花弁が変色したり奇形となり、激しい場合には開花不能となります。

3 生態

(1)ヒラズハナアザミウマは成虫で植物体の根際や草むらなどで越冬し、イネ科を除く多くの植物に寄生しますが、生活の主体は花といわれており、ハウス内では開花始め頃から密度が高くなります。

(2)ネギアザミウマは成虫で草むらに潜伏し、植物の根際で越冬します。加温施設では植物があれば冬季にも発生します。高温時には3週間で1世代を完了しますので、野外では6~7世代を繰り返します。

(3)キイロハナアザミウマの生活部位は花で、葉に生息することは稀です。道内での発生経過や被害の実態については明らかになっていません。

(4)チャノキイロアザミウマは北海道における発生確認は比較的新しく、侵入経路や生活史については明らかになっていません。

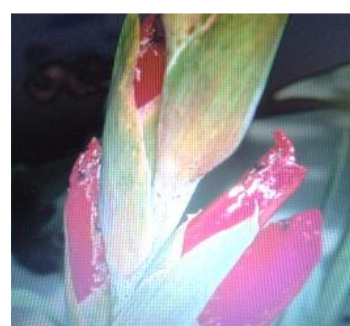
アザミウマ類は一般に高温、乾燥状態が持続すると増殖に好条件となり、ハウスなどの施設では多発しやすくなります。



ヒラズハナアザミウマの成虫



トルコギキョウの被害



グラジオラスの被害

冬に花を楽しみ・枯らさないコツ



戸外は真冬だというのにホームセンターなどの園芸コーナーの棚には、色とりどりの鉢花がならんでいます。これらの花々は冬を代表する鉢花というイメージがありますが、エラチオール・ペゴニアやカランコエの本来の開花時期は春です。

このように冬に流通する鉢花の中には、本来の開花時期でないものでも人為的に温室で促成開花させたものが少なくなく、一般家庭では低温下の過湿による根腐れで枯れることがしばしばあって「栽培が難しい鉢花」と思われがちです。

冬に花を楽しみ、枯らさないようにするためには、購入したら室内の日当たりの良い窓辺で鉢土を乾かしぎみに育てることがコツですが、旭川の冬の暖房が効いた一般的な部屋は、湿度が低く、乾燥も激しいことから花が早くいたみやすいので、植物にとって適温(最低と最高の温度差が 15℃以内)が確保できる場所に置き、ときどき霧吹きして空中湿度を保ったり、暖房の温風を直接あてない気遣いが必要です。また、元気になるように水や肥料をやりたくりますが、冬の頻繁な水やりや肥料は根腐れの原因となることが多いので注意が必要です。開花中には咲き終わった花をこまめに摘み取り、月に2回ほど液肥を与えますが、与える場合にも規定濃度の1/2に薄めて与えた方が無難です。

冬の鉢花の生育温度と置き場所

植物名	最低温度	置き場	植物名	最低温度	置き場
シャコハサボテン	5～8℃	室内の窓辺	木立ち性・ペゴニア	5～10℃	室内の窓辺
カランコエ	3～8℃	室内の窓辺	エラチオール・ペゴニア	10～15℃	室内の窓辺
ポインセチア	10～15℃	室内の窓辺	ゼラニウム	3～8℃	無加温室内窓辺
シクラメン	5～8℃	室内の窓辺	ペラルゴニウム	0～5℃	無加温室内窓辺
フクシャ	5～8℃	室内の窓辺	クンシラン	5～10℃	無加温室内半日陰

注:栽培管理温度は、最低温度と最高温度の温度差 15℃以内を目安とします。

展示室の植物 (70)

グロキシニア・シルヴァティカ (別名:シーマニア)

学名: *Gloxinia sylvatica* 科名: イワタバコ科グロキシニア属 産地: ペルー、ボリビア

冬期間の当センター温室で密かに目をひくのがシーマニアです。草丈は 30cm 前後で、晩秋から春にかけて生育しながら、先端が開いた筒状のかわいい花を横向きに咲かせます。姿は金魚が口を開けているような形で、色は鮮やかなオレンジ色(内側は黄色)をしています。原産地では森林に生ずる球根植物で、寒さに弱く、夏の直射日光もあまり得意ではないことから鉢植えにして育てますが、地表近くを這う茎を持っているので、大株にすると見ごたえがでます。株分け、挿し芽で増やすことができます。

別名「シーマニア」の由来は、日本に導入当時(1950 年代)にはイワタバコ科シーマニア属に分類されていたことから、当時の属名がそのまま流通名として定着したと云われています。

